

口頭発表の分担

口頭発表のやり方

・教科書の担当範囲 (1人の場合は数ページ、グループの場合は1章) について、要約して口頭で説明する。その際、必ずレジュメ (講師がいつも授業で配っているようなプリント) を作成し、配付すること。

・必要とされる内容は、まず教科書に書いてある文章を説明すること。次に、教科書の用語や概念で、教科書を読んだだけではわからないもの、さらに説明が必要なものがあつた場合、それについて調べて報告すること。

* 例えば、「金マルクと紙幣マルクの比率」(教科書 S. 100) など。

** 事項を調べるときは、ほかの授業で学んでいると思うが、信頼できる文献にあたるのが望ましい。 wikipedia などは不可とする。

*** 使った文献については、「高山洋吉編『世界を変えた言葉Ⅱ：両体制の相克』誠信書房、1959年、49～58頁」のように、書誌データを明示すること。

・レジュメは、発表の1日前 (月曜日) までに講師のメールアドレス (tokan@nifty.com) にまで送ってもらえれば、こちらで人数分だけ用意する。間に合わない場合、各自でコピーしてもらってもよい。

・パワーポイントなどでパソコンとスライドを利用したい場合、事前に申し出ること (講師が事務を確認する)。

・時間配分は、学生の担当時間 50～60分、講師の質問、コメント、解説などが 30～40分を想定している。1回を4人で担当する場合、1人につき10～15分が持ち時間と考えればよい。もちろん、グループ発表の場合、1グループにつき50～60分をすべて使ってよい。

担当範囲の一覧

授業日	章	項目	ページ数
6/26	8章	ドーズ案	2 (116-117)
		内政の不安定	3 (117-119)
		二つの裁判	3 (119-121)
		ヒンデンブルク大統領	4 (121-124)
		ロカルノ条約	3 (124-126)
		ゼークトの失脚	3 (126-128)
	9章	経済復興とその弱点	4 (129-132)
		社会民主党の責任	3 (132-134)
		ラートブルフの批判	3 (134-136)
		君主財産没収と建艦の問題	3 (136-138)
ヘルマン・ミュラー内閣		3 (138-140)	

授業日	章	項目	ページ数
7/3	10章	ドーズ案よりヤング案へ	3 (141-143)
		ヤング案反対闘争	2 (143-144)
		シュトレゼマンの死	3 (144-146)
		経済恐慌の衝撃	3 (146-148)
		ヒルファーディングとシャハト	3 (148-150)
		ミュラー内閣の倒壊	3 (151-153)
		シュライヒャーの暗躍	4 (153-156)
7/10	11章	緊急令と解散	2 (157-158)
		ブリューニングの誤算	3 (158-160)
		ナチスの躍進	4 (160-163)
		議会政治の防衛	2 (163-164)
		ブリューニングの外交	2 (164-165)
		独逸関税同盟	3 (165-167)
		経済恐慌の深刻化	2 (167-168)
		ナチスと共産党	4 (168-171)
		ハルツブルク戦線	3 (171-173)
		シュライヒャーとナチス	3 (173-175)
		ヒンデンプルク再選	4 (175-178)
		ブリューニングの罷免	3 (178-180)
		ブリューニングと経済恐慌	2 (180-181)
7/17	12章	男爵内閣の成立	3 (182-184)
		プロイセンのクーデター	3 (184-186)
		社会民主党と抵抗	3 (186-188)
		二つの選挙	2 (189-190)
		パーペン、シュライヒャーの反目	4 (190-193)
		シュライヒャー内閣	2 (193-194)
		パーペンの復讐	4 (194-197)
		シュライヒャーの失脚	3 (197-199)
		ワイマル共和国の終焉	3 (199-201)
		ワイマル共和国失敗の原因	7 (201-207)